

---

こんしゅう  
今週のことば「道」

---

せいしょ  
《聖書》ヨハネによる福音書 14:1-12

みち  
道

みちにはいろいろな道があります。人が歩  
く道、車の通る道、電車が走る道、水が  
流れる川や水道、電気が流れる電線などが  
あります。

でもこのような道とはべつのもあります  
。柔道、剣道、茶道、書道といったも  
のです。これらの道は修業を経て自分をき  
たえていくためのものです。ですから、こ  
れで終わりということはなく、いつまでも  
続く道です。

人の一生も道にたとえられます。自分  
の歩いた道はたとえ短くても、くつきりと  
あとが残っています。そして、これから先も  
続いていきます。

かみ みち  
神さまの道

神さまを信じることも、人の一生と同  
じように道にたとえられます。イスラエル  
の民が神からの救いを語る時も、ひとり  
の人の歩みのように語ります。

神さまは常に共にいて、イスラエルの民  
を守っておられました。しかし、イスラエ  
ルの民は神さまの道からそれるようなこと

をしてしまいました。

それゆえ、神さまはイスラエルの民をそ  
の国から追放して、苦しみを味わわされま  
した。それはイスラエルの民がはじめから  
の神さまの道にもどるためでした。民は神  
さまの道に気づき、神さまにもどるようにな  
りました。

みち  
道であるイエス

宗教において、悟りをひらいたように  
錯覚する人がいます。悟りを開いた人はむ  
しろその歩みを止めない人かもしれません。  
私たちはいつも求めつづけなければなり  
ません。

私たちにとって、イエスこそ道です。イ  
エスに従うということは、これこれの教え  
を理解できましたというものではありません。  
ある意味では、イエスの生き方を  
追体験することかもしれません。イエスは  
人の生き方がどうあるべきかを身をもって  
示されました。

私たちはすでにイエスの道を歩いてい  
ますが、これからも歩き続けなければなり  
ません。

復活節第5主日福音A年（瀧野正三郎）

【こじか 1976.3.14 号掲載文を加筆修正】

<http://www.eonet.ne.jp/~takino/>